

在籍学級に入り込み指導で児童が不十分なところを取り出して個別指導を行った。

1 年生の時の指導

- ・はじめは、精神的な安定をねらって、絵本の読み聞かせを行う。耳がよく、2 回ほど読むと後は覚えて先の文を言う。(加古さとしの絵本「はははのはなし」)。
- ・耳で覚えて、話しの展開を先に言える児童だが、「じゃ、絵本のことばを書こう」というと書かない。あきてくるとうさがでてくるなど自分で物語を作っていく。いろいろな本を使ったが、自分で物語を作って、本を放り出す。
- ・お母さんに聞くと、「なんだか訳の分からないことをいっているよ」と言う。日本語としてはおかしい所はない。

2 年生になってからの指導

- ・2 年生になってから、「妖精っていつもなにをしているの？」で自分の考えた妖精について、多弁に話す。豊かな語彙の話をしてくれるようになった。
- ・2 年生になってから、指導中に書く学習をしなくなった。1 年生の時のほうが促音や拗音を書いていた。2 年生になってから、全く書く事は拒否している。
- ・教科も大変な状態である。なるべく在籍学級の学習とは違うように、飽きさせないように、カードを使ったひらがなカタカナ指導などを行う。しかし、すぐ飽きる。書く学習では必ず、「先生も！」と言う。
- ・五味太郎「擬態語・擬声語」を使って、ビンゴゲームのような活動をする。すると、国による違いがあり、一致しない。鳴き声一つにしても、「ニャンニャン」じゃない。自分でそれは失敗したなと感じた。

4. 考察

- ・成績は大変な状況である。二年生になって日本人児童と同じように成績をつけられている。評価はきびしい。
- ・現在のスウちゃんの口癖は「めんどうだ」「分からなければ分からないでもいいよ」「先生、本当は分かるんだよ、面倒だからしないでくださいんだよ」という。担任も本当に理解しているかどうかを把握できない。自分も彼女のレベルをとらえられない。もしかしたら教科に対する拒否反応ではないか。
- ・親や学校と同じレベルで彼女を理解していく、そんなネットワークを作りたい。

谷口 理恵
TANIGUCHI, Rie

「国際カンファレンス：21 世紀の教育実践と教師教育」の報告

Report of “International Conference on Teaching and Teacher Education in the 21st Century”

2003 年 12 月 13－14 日の 2 日間、本学本部棟において、標記の国際カンファレンスが開催された。このカンファレンスは、本学教育学科教授・藤田英典が主催する PACT 日本フォーラム（JFPACT: Japan Forum of Professional Actions and Culture of Teaching, 「教職の専門性と教師文化」研究日本フォーラム）と本学教育研究所（IERS: Institute for Education Research and Service）の共催により開催されたもので、イギリス、中国（アメリカ在住）、香港から招聘した 4 名の研究者を含め総数 90 名の学内外の研究者・現場教師・マスコミ関係者・学生などの参加を得て、刺激と示唆に富む貴重な報告と熱心な討論が行われ、実り多いカンファレンスとなった。プログラムは下記に示されている通りであるが、その概要は以下の通りである。

第一報告者・佐藤学氏（東京大学大学院教育学研究科教授）は、「脱中央集権化・規制緩和と教師の自律性の危機：ヴァルナラブルな専門職の防衛のための教育改革の課題」と題して、最初に日本の教育改革の動向を批判的に

検討し、教職の専門性に対する攻撃がさまざまな側面で強まっている現状をパラドックスとアイロニーに満ちたものとして明らかにしたうえで、そうした危機的状況を打開・克服する一つの可能性として、佐藤氏自身が関わり指導してきた「浜之郷小学校」と「学陽中学校」の学校再生・学校づくりの実践を紹介し、自律性と多様性、自主性と反省性、教職員・生徒・保護者の協同性による「学びとケアリングの共同体づくり」の重要性を指摘した。

第二報告者・李軍氏（元・華東師範大学準教授、現メリーランド大学大学院博士課程）は、「中国における専門職としての教師の役割：教育政策の多角的分析」と題して、合理的な政策研究が乏しい現状を踏まえ、まず政策研究の分析枠組みを提示し、それに基づいて中国における教師教育政策の展開を概観したうえで、合理的アプローチによって、中国における近年の教師教育の動向と課題を、政策の目標、政策課題と政策上の選択肢、政策決定の背後にある行為理論などの観点から検討し、次いで規範的アプローチによって、公共財としての教師役割の価値、その価値の喪失傾向のなかでの政策課題、その価値の再構築の可能性などについて、考察した。

第三報告者のパメラ・マン氏（エディンバラ大学教授、同教育学部長）は、「スコットランドにおける教育実践：自律性か統制か？」と題して、スコットランドの教育政策・教師教育政策に深く関わってきた経験を踏まえつつ、まずイギリスにおける近年の教育改革動向、とりわけ「品質保証国家」と言われる、教育・教員の質の向上を目的にした一連の改革動向を、教師のアカウンタビリティ、教育実践の成果の管理、ナショナル・カリキュラムやそれと連動する共通学力テスト、オフステッドによる学校査察などに言及しながら検討し、そうした改革動向のなかで、教師の資質・力量や実践に対する統制が強化され、自律性が改めて課題となっている状況を批判的に検討し、最後に、PACTの共同研究として行われた質問紙調査のイギリスの結果に基づき、イギリスの教師の意識を分析し、教職の今後の課題について考察した。

第四報告者・藤田英典（本学教育学科教授）は、PACT 日本フォーラムの研究メンバーとの共同発表として、調査報告「教師文化と教師の役割：日中英の比較」と題する報告を行った。最初に、近年の日本における教育改革動向について、新自由主義・新保守主義、消費者主義・市場的競争原理主義によるラディカルな教育制度改革と新たなテスト主義・評価主義による教育の質の統制が進むなかで、教師の多忙化が進み、教職の専門性・自律性が脅かされている現状を確認し、PACT 国際比較調査の目的と枠組みを紹介したうえで、調査結果の概要を、教師の生活と仕事パターン、学校・教師の役割と課題、教師＝生徒関係、教師の職務分担と協同性・同僚性、教職の専門性と教師の自信に分けて紹介し、教師の多忙化や教職の専門性・献身性など、日中英に共通する特徴も多いが、仕事のパターンや同僚性や自信の構造などの点で日本の教師・教職の特徴と見られるものも少なくないことを明らかにし、その教育的・文化的背景について考察した。

第五報告者・ジョン・ガードナー氏（クィーンズ大学教授、同教育学部長）は、「変動期の教職と教育実践」と題して、まず北アイルランドにおける学校教育と教員の概要を紹介したうえで、サッチャー政権以降の改革の動向を、教育・教授システム、カリキュラム、教師の資質・力量、学習環境、教師の教育条件・教育環境、教師評価、教師のストレスとその背景要因、教員研修について総合的に検討し、教職の脱専門職化と教師のテクニシャン化・ロボット化の傾向とその意味について考察した。北アイルランドにおける教員評価の実態についての詳細な紹介は、日本の教員評価の今後を考えるうえでも非常に示唆に富むものであった。

第六報告者・王淑英氏（香港中文大学準教授、元・本学教育学科準教授）は、「教師教育再考：グローバル化時代における教師の仕事と生活」と題して、最初に、社会学における二つの理論的アプローチとして、現代機能主義と新制度学派の特徴を比較検討し、教育組織を含む現代社会における組織構造の構成を規定する要因としての文化的・制度的環境の重要性を踏まえるとき、新制度学派の理論的アプローチが妥当かつ有効であることを指摘し、次いで、その視点に立って、PACT 国際比較調査の結果を解釈し、最後に、グローバル化する教育界においてフォーマルな組織としての教師教育が直面する諸問題について考察し、教育改革の皮肉な帰結として、教師の権威の低下、教育組織における脱連結の進行、教師教育と教師の役割・職務との非整合性などが問題として浮上していることを指摘した。

以上六つの報告を踏まえて、セッション毎の討論及び総括討論では、研究者、現場教師、マスコミ関係者、学生などの参加者を交えて、種々の質疑応答と活発な議論が展開された。1980年代以降、日本だけでなく、世界的に、「教育改革の時代」とも言える、ラディカルな改革が進んでいるが、その過程で、「教育がよくなるかどうかは、結局のところ、教師の資質・力量と実践にかかっている」といったことが繰り返し言われ、その資質・力量の向上のためと称してさまざまな改革が進められている。しかし、皮肉なことに、教師の教育条件・教育環境はますます悪化・劣化する傾向にあり、その将来に対する展望は必ずしも明るいものではない。時代や社会の変化とともに、学校や教育の在り方も相応に変化していく必要があり、また、事実変化しつつあるが、そうした変化のなかで、これからの教育・教育実践の在り方と教師教育の課題を考えるうえでも、また、教師文化・教育実践・教師教育に関する研究の新たな展開を促進するうえでも、今回の国際カンファレンスは刺激と示唆に富む貴重なものであった。示唆に富む貴重な報告をして下さった先生方とカンファレンスに参加して下さい下さった方々に感謝の意を表したい。

なお、当初、海外からは、上記4名のほかに、中国と台湾からも教師教育を専門とする研究者を招聘し、報告して頂く予定であったが、直前になって、VISA取得上の手違いと緊急な体調悪化により、残念ながら、来日して頂くことができなかった。それに伴う変更を含めて、下記のプログラムは、カンファレンス広報の際に用いたものに、必要な修正を加えたものである。

最後に、このカンファレンスを開催するに際して、その準備と運営を担当して下さい下さった、教育研究所所長のD・ラッカム先生、教育学科の立川明先生、町田健一先生、教育研究所の三井さんをはじめとするスタッフ及び学生諸君、PACT日本フォーラムのメンバーの方々にも、この場を借りて改めて御礼を申しあげたい。また、本カンファレンスは、日本学術振興会科学研究費(B)(1): No.13410077(研究代表: 藤田英典)による研究の一環として、その経費の主要部分は、同科学研究費補助金によって賄われた。記して謝意を表したい。

【参考：カンファレンス・プログラム】

国際カンファレンス 21世紀の教育実践と教師教育

International Conference on Teaching and Teacher Education in the 21st Century

2003年12月13-14日 国際基督教大学

13-14 December 2003 International Christian University, Tokyo

プログラム Program

12月13日(土) December 13, Saturday

9:10-9:30 開会式 Opening Remarks (本部棟 Administration Building Room 206)

歓迎の挨拶 Greetings

デーヴィッド・ラッカム (国際基督教大学教授、同教育研究所所長)

Prof. D. Rackham, Director of IERS, ICU

趣旨説明 Objectives of the Conference

藤田英典 (国際基督教大学教授、PACT日本フォーラム代表)

Prof. H. Fujita, ICU and Chair of JFPACT

報告者・司会者紹介 Introduction of the speakers and session chairs

9:30-12:30 第1セッション Session 1 (本部棟 Administration Building Room 206)

テーマ：変動社会における教育実践の課題

Theme: Issues of Teaching in A Changing Society

司会：立川明（国際基督教大学教授）

Chair: Prof. A. Tachikawa, International Christian University (ICU)

9:30 – 10:30 報告 1 Report 1

佐藤学（東京大学教授）

Prof. M. Sato, University of Tokyo

「脱中央集権化・規制緩和と教師の自律性の危機」

Teachers' Autonomy at Risk under Decentralization and Deregulation: Issues of Educational Reform in Defense of Vulnerable Profession"

休憩 Coffee Break

10:50 – 11:50 報告 2 Report 2

李軍（元・華東師範大学準教授，現在メリーランド大学大学院博士課程）

Dr. J. Li, University of Maryland

「中国における専門職としての教師の役割：教育政策の多角的分析」

"The Role of Teacher as a Profession in China's Context:

A Multiple-Perspectives Approach of Policy Analysis"

11:50 – 12:20 討論 Discussion

昼食 Lunch

13:30 – 15:00 第1セッション（続き）Session 1（continued）本部棟 Room 206）

テーマ：変動社会における教育実践の課題

Theme: Issues of Teaching in A Changing Society

司会：王淑英（香港中文大学準教授）

Chair: Prof. Suk-Ying Wong, Chinese University of Hong Kong

13:30 – 14:30 報告 3 Report 3

パメラ・マン（エディンバラ大学教育学部長）

Prof. P. Munn, Dean, School of Education, University of Edinburgh

「スコットランドにおける教育実践：自律性か統制か？」

Teaching in Scotland: Autonomy or Control?

14:30 – 15:00 討論 Discussion

休憩 Coffee Break

15:20 – 16:50 第2セッション Session 2（本部棟 Administration Building Room 206）

テーマ：教師文化の国際比較

Theme: Culture of Teaching from A Comparative Perspective

司会：王淑英（香港中文大学準教授）

Chair: Prof. Suk-Ying Wong, Chinese University of Hong Kong

15:20 – 16:30 報告 4 Report 4

藤田英典 + PACT 日本チーム

Prof. H. Fujita and Japanese PACT members

「教師文化と教師の役割：日中英の比較」

Survey Report: Culture of Teaching and the Role of Teachers: A Comparison of UK, China and Japan

16:30 – 16:50 討論 Discussion

17:00 – カクテル・パーティー Cocktail Party (大学食堂)

12月14日 (日) December 14, Sunday

9:10 – 12:30 第3セッション Session 3 (本部棟 Administration Building Room 206)

テーマ：教育の質と教師教育の課題

Theme: Quality of Teaching and Teacher Education

司会：藤田英典 (国際基督教大学教授)

Chair: Prof. H. Fujita, ICU

9:10 – 10:10 報告5 Report 5

ジョン・ガードナー (クイーンズ大学教授)

Prof. J. Gardner, Queens University

「変動期の教師と教育実践」

Teaching in a Climate of Change

10:10 – 11:10 報告6 Report 6

王淑英 (香港中文大学準教授)

Prof. Suk-Ying Wong, Chinese University of Hong Kong

「教師教育再考：グローバル化時代における教師の仕事と生活」

Rethinking Teacher Education and Its Implications on the Work Lives of Teachers in An Age of Globalization

休憩 Coffee Break

11:30 – 12:30 総括討論 Discussion

12:30 閉会の挨拶 Closing Remarks

藤田 英典

FUJITA, Hidenori